

Hitotsuyama Racing

Press release - 2013.0704- 004

2013年7月4日

Race Report

Super GT 2013 Series

Round-3 / Sepang International Circuit

相次ぐトラブルを乗り越り14位完走

Hitotsuyama Racingは6月15～16日にマレーシアのセパン・インターナショナル・サーキットで開催された Super GT 第3戦「SUPER GT INTERNATIONAL SERIES MALAYSIA」に参戦致しました。公式練習からトラブルが続発し、決勝レーススタートも危ぶまれましたが、14位完走を果たすことができました。

第2戦富士では苦手なサーキットながらもシングルポジションを好走するシーンも魅せた#21 ZENT Audi R8 LMS ultra。マシン特性としてはセパンの方が富士より相性が良いことも確かであり、ポイント獲得を最低限の目標として今大会へと臨んだ。その一方で、カスタマーサポートなしでのレースはチームにとって不安要素であったが、その不安が公式練習早々からの的中してしまい、終始慌ただしい雰囲気でのレースウィークとなった。





6月15日 公式練習 / 公式予選

例年通り強い日差しが照りつける中開始された公式練習。第1～2戦はリチャードがセットアップを決定し、その後都筑が決勝レースを意識してロングランを担当していたが、このセパンは都筑の経験が少ないことも有り、都筑主体でセッションが進められていった。だが、その都筑は昨年旧型マシンで自分自身が記録したタイムすら上回ることが出来ず、エンジンのパワー不足を訴える。Audi R8 LMSは熱によるパワーダウンが顕著であり、この症状が早くも発生してしまった。このパワーダウンに全く太刀打ちできない都筑は10周ほど走行した時点でピットインし、一旦リチャードに交代。マシンを暫くクールダウン、そしてタイヤを交換したこともあり、リチャードは何とかタイムアップを果たし2分7秒866を記録。さらにタイムアップを果たすかに見えた翌周、クラッチの異変を感じたリチャードは緊急ピットイン。クラッチの破損が判明し、交換を余儀なくされたため、2時間後の公式予選開始までにマシン修復を間に合わせることを最優先に、その場で公式練習を断念することを決めた。午後4時30分から開始される公式予選。開始5分前、Q1担当リチャードがマシンに乗り込み準備するものの、マシンのリヤセクションは未だに組み上がらず。「予選終了5分前にコースインできれば、1周はアタックできるから」と決して諦めようとなしないリチャードだが、メカニックの奮闘空しく、マシンがジャッキダウンされたのと同じタイミングでピット出口はクローズされてしまった。嘆願書の提出により決勝レースへの参加は認められ、24台中23番手グリッドが与えられたが、クラッチへの不安、熱によるパワーダウン、セットアップ不足と、多くのネガティブな要素を背負ったまま決勝日を迎えることになった。

P1 #55 ARTA CR-Z GT 高木真一 / 小林崇志

P2 #16 MUGEN CR-Z GT 武藤英紀 / 中山友貴

P3 #61 SUBARU BRZ R&D SPORT 山野哲也 / 佐々木孝太

DNQ #21 ZENT Audi R8 LMS ultra 都筑晶裕 / リチャード・ライアン (Grid P23)





6月16日 決勝レース

前日同様マレーシアらしい強い日差しの中、約67,000人の観客を迎えた決勝日。午後2時50分、決勝前のウォームアップが開始され、#21 ZENT Audi R8 LMS ultraもスタート担当の都筑とともにコースイン。しかし、都筑は「シフトアップが上手く出来ない」ことを無線で告げ、早々にピットイン。またしてもマシンはセッション中にピット内に押し戻されてしまった。ピット出口閉鎖までになんとかトラブルを解決したい、そんな思いでマシンのリヤセクションをチェックするメカニック、そしてデータを解析するエンジニア。だがトラブルの原因は特に見当たらず、過去の経験から「熱により電氣的なエラーが発症してしまっている。」と断定。監督の鬼木は「このままではスタートできても、早々にストップしてしまう可能性が高い。症状が悪化するようであればそこでレースを諦めなければいけない。」ことを都筑に告げて、グリッドに送り出した。午後4時にスタートした決勝レース。幸いなことに、シフトトラブルはフォーメーションラップでは陰を潜め、#21 ZENT Audi R8 LMS ultraと都筑もクラス24台中23位から無事にスタート。前方を行くNissan GTR 2台、Audi、Ferrariとのバトルを展開するが、ストレートが遅いAudiではオーバーテイクするところまでは至らず、序盤から我慢のレースを強いられることに。だが、GT500を交えたバトルが始まると、都筑は経験を生かししっかりとポジションアップ。20周目にはクラス17位までポジションを上げて、リチャードに交代。コースインしたりチャードの前方には同じタイミングでピットインした#48Nissan GTRの千代選手が現れ、数周に渡りテール・トゥ・ノーズのバトルを展開。自己ベストを更新しながら千代選手を追い詰めるリチャードだが、ストレートでは簡単にその差を引き離されてしまい、千代選手に軍配が上がった。その後、#2 McLarenの高橋選手を数周のバトルの末にオーバーテイクし、14位までポジションを上げたところでチェッカー。完走が難しいことを事前に知らされていただけに、決して満足の出来る順位ではないものの、相次ぐトラブルを乗り越えて完走したマシンを前に、チームスタッフからは笑みが零れた。

P1 #55 ARTA CR-Z GT 高木真一 / 小林崇志

P2 #16 MUGEN CR-Z GT 武藤英紀 / 中山友貴

P3 #11 GAINER DIXCEL SLS 平中克幸 / ビヨン・ビルドハイム

P14 #21 ZENT Audi R8 LMS ultra 都筑晶裕 / リチャード・ライアン

チーム代表 一ツ山康

「とても大変なレースでした。昨年もここセパンでは熱による原因不明のトラブルが発生していたので、考え得る対策はしてきたのですが、同様のトラブルに翻弄されたレースになってしまいました。それからカスタマーサービスが不在だったことも痛手となりましたね。現場でアドバイスしていただきたいことは山ほどあったのですが、結果はとても満足できるものではありませんが、完走できたことが何よりもの救いです。次戦はAudiが得意とする菅生ですから、頑張ります。」

第4戦は7月27～28日に宮城県・スポーツランドSUGOにて開催されます。

引き続き、皆様からの沢山のご支援・ご声援をお待ちしております。



Official Facebook page of Hitotsuyama Racing.

<http://www.facebook.com/pages/Hitotsuyama-Racing/202417599846736>